



いつもなら長岡花火を前に気ぜわしい日々を送っているころだ。今年の夏は例年通りとはいかないようで、仕事終わりにどこぞの花火に出くわすこともなく、原信で「長岡甚句」にあおられることもない。チケットこそ外れたが楽しみにしていたオリンピックも延期となり、新型コロナウイルス禍の中、穏やかでありつつもどこか寂しくぼんやりとした夏を迎えている。

季節感が乏しい日々だがしかし、日に日に大きくなる妻のお腹に、時間の経過をひしひしと感じる。今秋迎える新たな命は、ご時世のことなどお構いなしに前に進んでいるようで、何とも頼もしい。自分はといえば、最近行き始めた赤ちゃん用品店で商品を物色していると、自分が自分でないような気がしてきて「大丈夫か」と思うことがある。今年初めて親になる、私なりの今だ。

新型コロナウイルスの影響で、今年に入ってからプライベートでは遠出をしなくなった。外食の回数も減ったし、ましてや県外や都市部へ出掛けることもはばかれる状況が続いている。スマホ片手に友人とビデオ通話することも全く普通のことになった。文明の利器、便利この上ない。顔も見えないし声も聞こえるがしかし、改めて「リアル」に価値を見出す。

「暇ができれば会おう」と以前から、大学時代の友人や前の会社の同期と話していた。アフター、ウィズ云々と叫ばれる今日、それはいつのことになるのか。遠く離れて時間が経過しても「また」と言い合える旧友との繋がりをとても有り難く思うし、Uターンした地元の仲間や家族の存在、近隣との関係性の近さ、その貴重さを再認識させられた。

しかしてUターン6年目。2020年の今夏、お祭りも花火もないけれど、仲間や地域との繋がりを再認識して心を温めながら、新しい命を迎えることに思いを巡らせるなんて。「地元に戻

りたい」とぼんやりと、しかしずっと心に抱きながら過ごしていた“あの頃”の自分には想像できなかった。選んだ道なりの旅が続く。とりあえずは正解続き、現時点ではそう思う。